

令和 5 年度

事業報告書  
及び附属明細書

自 令和 5 年 4 月 1 日

至 令和 6 年 3 月 31 日

公益財団法人 八王子市学園都市文化ふれあい財団

# 目次

I 令和5年度財団経営の総括	1
II 事業概要	3
1. 芸術・文化の振興事業	3
(1)鑑賞事業	3
(2)芸術・文化活動等普及事業	4
(3)公演等支援事業	5
2. コミュニティの振興事業	5
(1)コミュニティ育成事業	5
(2)コミュニティ活動の支援事業	6
3. 学園都市づくりの推進事業	6
(1)市民大学「八王子学園都市大学(いちょう塾)」の運営事業(受託事業)	6
(2)学園都市づくりの支援事業	6
4. 施設管理及び貸与事業	6
5. 広報宣伝・会員事業	7
6. 収益事業	7
7. その他の事業	8
(1)大学コンソーシアム八王子の支援	8
(2)市内で行われる祭り、フェスティバル等の支援	8
8. 法人管理	8
(1)財政収支の改善	8
(2)サービス品質の向上	8
(3)人材育成と組織力強化	8
(4)第3次中期経営計画の目標達成	8
III 令和5年度事業一覧	9
IV 財団の概要	59
V 附属明細書について	61

※公益目的事業の目的区分について本文中で使用する略称

・鑑賞事業：㊦                      ・文化・芸術活動等普及事業：㊧  
・公演等支援事業：㊨              ・広報宣伝事業：㊩  
・収益事業：㊰

# I 令和 5 年度財団経営の総括

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類に変更されたことにより、財団運営においても転機を迎えました。市民生活もコロナ禍前の日常を取り戻し、着実に事業を実施することができました。

事業面では、「八王子まつり」が 4 年ぶりに開催され、過去最高に並ぶ 85 万人の来場者を迎えることができたほか、10 年をかけ 2 年ごとに市内各地域を巡る「八王子芸術祭」が高尾・恩方地域を中心に幕を開け、様々な催しを行い、地域に新たな活動が芽生えるなど、一定の成果を上げることができました。「伝承のたまてばこ」では、東日本で初となる「日本遺産フェスティバル」との同時開催とした相乗効果で例年を超える来場者が訪れ、より多くの方々に伝統文化の魅力を伝えることができました。

施設管理については、利用料金収入が回復し予算の 98% にまで達することができました。また、芸術文化会館(いちようホール)が大規模改修工事による長期休館に入るにあたり、休館に向けた事務所の移転、備品等の運び出しを行い、館を工事事業者へ予定どおり引き渡しました。

経営面では、新型コロナウイルス感染症の落ち着いたことにより、国庫等補助金収入が大幅に減額となりましたが、利用料金収入の回復、経費の削減、高い水準で推移してきた電気料金等の光熱水料費の値上がりが見込まれる範囲内に収まったことなどから、今年度も黒字決算となりました。

## 1. 中期経営計画の重点施策と結果

令和 5 年度は、第 3 次中期経営計画の 3 年目にあたり、同計画に掲げた施策・目標の達成に向け、安全面に配慮しながら事業を実施しました。重点施策の結果は次のとおりです。

### (1) 魅力ある芸術文化事業を全市的に展開し、「芸術文化薫る魅力都市八王子」を市内外に発信する

「東京交響楽団定期演奏会」、「森 麻季&錦織 健 デュオ・リサイタル」、「松竹大歌舞伎」など著名な出演者による公演のほか、夏休みの参加・体験型コンサート、落語会や J-POP アーティストの公演など、多様なジャンルで鑑賞機会を提供しました。

令和 4 年度からリサーチ・準備を進めてきた「八王子芸術祭 Journey-自然に潜む美しさを探る旅」では、9 月中旬から約 1 か月間、高尾・恩方など八王子西部地域を対象に、自然や歴史など地域の特色を生かしたテーマで、地元のアーティストがそれぞれの持ち味を活かし、多様な企画を展開しました。

11 月の「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル 2023～」では、同日開催の「日本遺産フェスティバル」に合わせ、JR 八王子駅コンコースでの催しや、八王子地域で聞こえる音を各会場で流す会場演出、八王子でかつて唄われていた民謡を現代の若手アーティストが再現するプロジェクトなど、伝統の継承と若い関心層の開拓・普及を図りました。

夢美術館では西洋美術、絵本、日本民画、オートマタ(自動からくり人形)など幅広いジャンルの 4 つの特別展を開催し、市民が美術館に足を運ぶ機会を提供しました。

### (2) 子ども・市民の文化活動、地域コミュニティ活動を支援し、豊かな市民生活の実現と地域コミュニティ活性化に貢献する

子ども・市民の文化活動では、ユースオーケストラの演奏会や、学校に音楽を届けるアウトリーチ事業などを通じて、多くの市民や子どもたちが音楽に触れる機会を提供し、子どもたちの健全な育成に寄与しました。また、演劇では学生や若者が個人で参加できる自立的なネットワーク活動やワークショップ等を実施し、次世代の文化芸術活動を支援しました。

夢美術館では市民公募展を実施し、市民の創作活動の発表の場を提供しました。

地域コミュニティ活動では、市民センターまつりや講演会の開催などを支援し、地域コミュニティの活性化を図りました。

### (3) 指定管理施設において、万全な維持管理と常に進化する運営でお客様満足の最大化を図る

「お客様の声対応システム」の運用等によりお客様のニーズを的確にとらえた改善に結びつけ、常に利用者目線に立った施設運営を行いました。

なお、各施設で実施した満足度調査結果は、「大いに満足」「満足」を合わせて 98.7%となりました。

### (4) 経営基盤の強化を図る

新たに管理職となった者や新規採用者の外部研修受講をはじめ職員への計画的な研修による人材育成に取り組み、組織力の強化を図りました。また、引き続き固定経費の削減や、利用料金収入、自主事業収入などの確保に努め、収支改善を図りました。

## 2. 課題と展望

### (1) 自主事業収入等の増収

市民のライフスタイルや価値観の変化による市場ニーズを的確に捉えた魅力ある事業を企画するとともに、芸術・文化の意義をより積極的・効果的に発信していくことで財団事業のファンづくりを推進します。動画配信や SNS による PR 及びチケットのコンビニ発券など時代に応じた取り組みやサービスの充実を図り、経営的視点を持って事業を進め、自主事業収入等の増収を図ります。

### (2) 固定経費の抑制

安定した財政運営のための収支改善には、固定費などの更なる経費削減が必要です。複数年・複数館契約による委託費の縮減など工夫をこらした効率的な執行を進めていきます。

### (3) 組織力の強化

職員の正規化や昇任制度の弾力的な運用などにより組織力強化に取り組んでいますが、職員の更なるスキルアップなど、引き続き人材育成に取り組みます。また、正規職員の新規採用を継続し、これからの財団を担う人材の確保を図ります。

### (4) 情報発信の強化

財団主催事業の広報や宣伝を強化し、観客数・参加者数の増加や満足度向上を図るとともに、施設の利用案内などを積極的に発信し、利用率を向上させる必要があります。

マスメディアによる取材、SNSやPRサイトの活用など様々な手段で財団の認知度の向上を図ります。

## II 事業概要

### 1. 芸術・文化の振興事業

芸術文化会館(いちようホール)、南大沢文化会館、学園都市センター、J:COM ホール八王子など、八王子市内の公共施設を拠点に質の高い芸術作品を披露する事業を行いました。

さらに、アーティストによる音楽講座や、学校にアーティストを派遣する事業等、市民が文化芸術を身近に感じる機会を創出しました。

夢美術館では、根強い人気のあるアルフォンソ・ミュシャや大津絵、オートマタなど様々な美術作品を紹介しました。また隔年で実施している「市民公募夢美エンナーレ 入選作品展」を開催し、市民の創作活動の発表の場を提供しました。

#### (1)鑑賞事業

##### ①一流の芸術実演団体やアーティストによる公演

東京交響楽団による「第10回八王子定期演奏会」や「ドラゴンクエストコンサート」に加え、「森 麻季&錦織 健 デュオ・リサイタル」や「八神純子 Live キミの街へ」などの公演を実施しました。



金子三勇士ピアノリサイタル

##### ②親しみの持てる企画で質の高い芸術文化に触れる機会を提供する

夏休み恒例の子ども向けオーケストラ公演のほか、南大沢クラシックシリーズとして「金子三勇士ピアノリサイタル」を実施。また、「八人の王子たち 第8 楽笑!」や「七夕朗読会」など、多様なジャンルで文化芸術の鑑賞機会を提供しました。



八人の王子たち 第8 楽笑!

##### ③国内外で高い評価を受けている優れた美術品等の紹介

特別展「アルフォンソ・ミュシャ展」、「めぐりあう大津絵」を開催し、「アルフォンソ・ミュシャ展」では過去最高入場者数となる20,665人を記録しました。

寄贈を受けた1,000点を超す神邊コレクション(近代木版口絵)を、「新規収蔵作品受贈記念」として紹介するとともに、引き続き調査研究を進め、その結果を順次展示しました。



新規収蔵作品受贈記念展示

##### ④現代の息吹を感じ未来を志向する、学生や子どもも楽しめる展覧会の開催

現役海外絵本作家の「ピーター・シスの闇と夢」、自動からくり人形作家の「ムットーニワールドからくりシアターV」を開催しました。

「ムットーニワールドからくりシアターV」では作品の稼働と合わせて作者自ら作中のストーリーを語る上演会を会期中の毎週土日祝日、計50回開催し、4,141人が鑑賞しました。



「ムットーニワールドからくりシアターV」上演会

##### ⑤地域ゆかりの美術作品を紹介

清原啓子、堀井英男など市にゆかりの作家の国内トップレベルの作品を常設展で紹介しました。

## (2)芸術・文化活動等普及事業

### ①各種体験ワークショップと発表公演

学生や若者が対象の演劇事業では、「2023年、わたしたちを上演しよう」をテーマに各種ワークショップと発表公演を実施したほか、ネットワークづくりに取り組みました。また、「八王子ユースオーケストラ」では、練習の成果を披露する発表公演を実施したほか、参加者が自主的にアンサンブルに取り組むなど、活動の幅を広げました。また、小中学生を対象にした「MOBダンスワークショップ」を実施し、発表会を2回実施するなど、地域に根差した次世代向けの市民参加型事業を実施しました。



八王子ユースシアター公演

### ②八王子独特の芸術文化の普及

「八王子芸術祭 Journey-自然に潜む美しさを探る旅」では、地元の木材を使った楽器づくりや身近な生物の生存戦略をテーマとしたアート映像、ファッションデザイナー篠原ともえによるトークイベントや間伐材を使ったメッセージバッグの配布など、オリジナリティの高い作品創作や地元施設を活かした事業を実施し、子どもたちや地元住民をはじめとするたくさんのお客様の来場でにぎわいました。また期間終了後も、次期開催までをつなぐプロジェクト「八王子アートジャーニー」の一環として、「アート楽器プロジェクト」を展開しました。恩方地域で使用されなくなったピアノを堀之内の地域交流の拠点「コミュニティプレイスまつまる」に移設し、子どもたちの参加でアートを施し、演奏会を開くなど、地域拠点の活性化に寄与しました。



八王子芸術祭  
chart project(R)ワークショップ

「伝承のたまてばこ〜多摩伝統文化フェスティバル 2023〜」は「日本遺産フェスティバル in 桑都」と同時開催し、「石川町龍頭の舞」(日本遺産構成文化財)や「下平井の鳳凰の舞」(ユネスコ無形文化遺産)の紹介、若手アーティストによる「鮎担ぎ唄」(民謡)の紹介等を行いました。西放射線ユーロード、JR 八王子駅、桑都テラスと街中をつなげる動線で展開し、伝統の継承と若い関心層の開拓、普及を図りました。



伝承のたまてばこ  
「鮎担ぎ唄」

「伝統芸能一車人形三座競演」では、八王子市・奥多摩町・埼玉県三芳町の車人形が初共演し、連携と普及を図りました。

学生を対象とした「学生の“KOTEN”芸能」では、学生たちが説経節の語りと三味線を体験しました。



学生の“KOTEN”芸能

### ③質の高い芸術文化の普及を図るため、気軽に足を運べるコンサートの実施やトークイベントへの演奏家派遣

平日の午前中に市民が気軽に楽しめる「モーニングコンサート」を開催しました。学校アウトリーチ事業では市内小学校9校に演奏家を派遣し、子どもたちが生の音楽を体感できる機会を提供しました。社会包摂の観点や学校のニーズを踏まえ、演奏家とプログラムを企画しました。

また、季節をテーマにした「SEASON'Sコンサート」をJ:COMホール八王子のロビーで開催しました。

### ④市民の優れた美術作品の展示

隔年で開催している「市民公募夢美エンナーレ」を実施し、入選作品展では審査を通過した70点を展示し、来館者投票により選出された13作品の表彰を行いました。



### ⑤他の機関や市民団体等と連携した事業

夏休み期間中に、東京富士美術館、村内美術館と連携して市内の美術館をめぐるスタンプラリー「3館ラリー」を実施しました。

また、八王子美術連盟と共催し、市内のギャラリーをめぐる「八王子画廊散歩」を実施しました。



アルフォンソ・ミュシャ展  
ギャラリートーク

### ⑥アーティストや研究者によるトーク等

展覧会の内容をより深く理解していただくために、いちようホールでコレクターや研究者による講演会や学芸員によるギャラリートークを開催しました。また、展覧会をより楽しんでいただくため、旧喫茶室スペースやホワイエを利用して教育普及事業を実施するとともに、特別展図録や関連グッズを販売しました。



大津絵展ギャラリートーク

### ⑦教育普及事業

「アルフォンソ・ミュシャ展」では、日本工学院八王子専門学校デザインアカデミーと協働して「ミュシャスタイルの花鳥風月」をテーマに、学生が制作した黒板アートをホワイエに展示しました。

## (3)公演等支援事業

市民団体が主催する演劇等の公演や、「青少年のための南大沢音楽祭」、「南大沢文化祭」などの地域の市民団体が主体となるフェスティバルに対し、当日の運営や舞台作りのアドバイスなどの人的支援や会場利用料の一部助成などを行いました。

## 2.コミュニティの振興事業

### (1)コミュニティ育成事業

ふれあいのあるまちづくりの推進及び地域住民の交流促進を図るため、地域コミュニティの高揚及び啓発の場を提供しました。

#### ①コミュニティづくりの活性化

地域住民協議会と協働し、地域の子どもの対象にした「バスケットボール教室」のほか、「はじめての己書～だれでも簡単！オリジナルの書～」など4つのコミュニティ講座を開催し、コミュニティづくりを支援しました。

#### ②住民協議会連携事業

17地域住民協議会で組織する住民協議会連絡協議会を5回(うち1回は総会)開催し、情報交換や意見交換を行いました。また、地域住民協議会役員を対象として地域づくりについての講演会を実施しました。また、コミュニティリーダー養成講座として、「地域防災リーダー養成講座」を開催しました。



コミュニティ講演会

#### ③地区図書室の運営

地域住民協議会や地域運営団体とともに、13の地区図書室を運営し、図書の貸出・返却業務、蔵書管理をはじめ読み聞かせや季節の装飾などの行事、及び地区図書室運営担当者の研修会・連絡会を行いました。

#### ④コミュニティ用具の貸出し(収益事業)

各種団体にコミュニティ用具の貸出しを行い、コミュニティ活動を支援しました。

## (2)コミュニティ活動の支援事業

地域住民協議会の運営経費やまつりの開催経費等を助成しました。

### ①住民協議会への助成事業

地域コミュニティづくりの推進団体である 17 地域住民協議会の活動を支援するため、運営費や広報紙の発行費用の一部を助成しました。

### ②まつりへの助成事業

「フラワーフェスティバル由木」、「八王子まつり」の開催経費の一部を助成するとともに、事務局を担当しました。

## 3. 学園都市づくりの推進事業

### (1)市民大学「八王子学園都市大学(いちよう塾)」の運営事業(受託事業)

八王子学園都市大学(いちよう塾)では、大学コンソーシアム八王子加盟の 25 大学等を含む講座提供機関 32 機関より 287 講座の提供がありました。

また、受講生の募集のため、講座案内 13,000 部及び市広報特集号 289,000 部(前期のみ)を作成するとともに、学園都市センターをはじめとする市施設に講座ごとに作成したチラシを配布するなど、市内外への周知に努めました。



いちよう塾 講座風景

### (2)学園都市づくりの支援事業

「大学コンソーシアム八王子」による、八王子地域を舞台に地域貢献を目的として学生が企画・運営・実施した事業に補助金を交付する「学生企画事業補助金」に負担金を支出することにより、学生の活動支援を行いました。

## 4. 施設管理及び貸与事業

### (1)八王子市地域市民センター18 館及び地区会館 14 館

市民センター18 館及び地区会館 14 館の指定管理者として、指定管理申請における提案書に基づき、地域住民協議会や地元町会・自治会などと連携し、利用案内、施設貸出及び利用料金徴収などの業務や、施設や設備の保守管理業務を行いました。

施設の利用申込みについては、WEBによる利用抽選申込や電話仮予約の予約確定を引き続き実施、加えてキャッシュレス決済を導入し、利用者の利便性向上に努めました。また、予約システム導入に向け準備を行いました。

開館日数 338 日

利用者数 1,215,201 人 施設利用率 60.5% ※区分利用率

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 98.7%(大いに満足と満足の合計)

※市民センターの区分利用率は午前・午後(A・B)・夜間(A・B)それぞれの利用区分数の合計を利用可能区分数で除した数



## (2)八王子市芸術文化会館(いちようホール)及び八王子市南大沢文化会館

芸術文化会館(いちようホール)、南大沢文化会館の指定管理者として、指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料金徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに、施設利用の促進及び利用者満足度向上に努めました。

### ア. 芸術文化会館(いちようホール)

開館日数 188日(令和5年11月6日より大規模改修工事のため休館)

入場者数 115,430人 施設利用率 70.1%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.4%(大いに満足と満足の合計)

### イ. 南大沢文化会館

開館日数 309日

入場者数 117,403人 施設利用率 87.8%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 100%(大いに満足と満足の合計)

## (3)八王子市学園都市センター

学園都市センターの指定管理者として、指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料金徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに、施設利用の促進及び利用者満足度向上に努めました。

開館日数 358日

入場者数 105,380人 施設利用率 86.1%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 98.9%(大いに満足と満足の合計)

## (4)八王子市夢美術館

夢美術館の指定管理者として、施設、設備、備品、収蔵品の適正な管理及び受付業務(観覧料の徴収など)を行いました。

開館日数 225日

施設利用・事業参加者数 45,746人(うち展覧会入場者数44,815人)

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 95.1%(大いに満足と満足の合計)

## 5. 広報宣伝・会員事業

ホームページや情報紙等を通じて、事業及び催し物の情報提供を行いました。市民の新聞離れの対策として、令和4年度に刷新した情報紙を広報はちおうじとの併配で市内全戸配布を開始し、広報誌「ラ♪ラ♪ラ MAGAZINE」ではアーティストや文化人等の取材記事を掲載し、事業の意義を市民に伝える広報を実施しました。また、友の会の入会金を12月から無料とし、会員サービス拡大・会員数増を図りました。さらに、民間の文化情報サイトや地元エフエムラジオでの情報発信や取材記事掲載に取り組みました。

## 6. 収益事業

利用者の利便性の向上を目的として、駐車場の管理・運営、チケットやグッズの受託販売等を行いました。

## 7. その他の事業

### (1) 大学コンソーシアム八王子の支援

全国有数の規模を持つ学園都市という地域特性を活かし、大学・学生・市民がそのメリットを感じることができ、高等教育の充実、地域社会の発展及び地域の国際化の推進など魅力ある学園都市の形成に向けた事業を展開する「大学コンソーシアム八王子」との協定に基づき、財団職員を事務局へ配置し、運営を支援しました。

### (2) 市内で行われる祭り、フェスティバル等の支援

「踊れ！西八夏まつり」、「八王子いちよう祭り」の運営費の一部を助成するとともに、運営の支援を行いました。

## 8. 法人管理

予算決算・経理・人事管理等を適正に行い、円滑な運営に努めました。  
また、評議員会を2回、理事会を3回、諮問委員会を2回開催しました。

### (1) 財政収支の改善

新型コロナウイルス感染症の落ち着いたことにより外部助成金が大幅に減少し、協賛金もわずかばかりとなりましたが、利用料金収入を確保し、効率的な業務の執行により支出を抑制し、収支の安定に取り組みました。昨年度と比べて、利用料金収入(芸術文化会館を除く。)は5%、自主事業収入は29%、共催手数料は50%、それぞれ増加しました。

### (2) サービス品質の向上

マネジメントの確実性を高めるとともに、お客様の声を的確に改善につなげ、利用者目線に立った施設管理を行いました。また、情報セキュリティポリシーに基づき情報資産や情報機器を適正に管理しました。

### (3) 人材育成と組織力強化

#### ① 人事制度の改革

嘱託員の正規化や一般職職員の総合職への転換制度により、職員のモチベーションを高めて将来の財団を担う人材を確保するとともに、65歳を超える職員の雇用継続制度を活用し人員体制を構築しました。

#### ② 人材の育成

新たに管理職となった者や新規採用者の外部研修への参加のほか、研修計画に基づき会計研修をはじめとした各種研修を実施したほか、サービス介助士の資格取得や指定管理事業計画で提案した上級救命講習に参加させるなど、職員のスキルアップを図りました。

#### ③ 情報発信力の強化

芸術文化公演をはじめとする各種催物などの情報や本財団が管理運営する施設の利用案内をホームページ、情報紙等で市民に発信しました。また、18市民センターにおいてはWEBによる抽選申込を継続し、サービスの向上を図りました。

### (4) 第3次中期経営計画の目標達成

第3次中期経営計画(令和3年度～7年度)に掲げた施策や目標を達成するために作成した各所管の課別経営計画について、理事長、常務理事及び財団管理職で構成する「執行会議」を毎月開催し進捗状況や成果について情報を共有するとともに、具体的な改善策を検討・実施しました。

令和5年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第9条第1項第2号に規定する事業報告の附属明細書は作成していません。